

1. はじめに

私が初めて日本癌治療学会（JSCO）の ASCO2015 派遣募集を知ったのは、1 月下旬の患者会仲間の SNS での応募締切延長の呼びかけでした。応募資格は、学術集会 PAL に 1 回以上参加していることと、英語でのコミュニケーションが可能なことでした。PAL には、2 年続けて参加しているので条件は満たしているものの、英語については、少し自信はありませんでしたが、何とかなるだろうという軽い気持ちで応募しました。また、2 年連続参加、報告書の提出、PAL セミナーでの参加報告が義務とあり、さらに英文 CV（履歴書）、英文応募理由を作成し提出はしたものの、まさか私が選考されるとは思っていませんでした。

約 10 年前に平滑筋肉腫で亡くなった妻が立ち上げた患者会（対象：成人軟部肉腫）を昨年 6 月に NPO 法人化したばかりで、これからどのように運営していこうかと考えていたところでした。昨年末には、ハワイでの肉腫の日米国際ワークショップで、アメリカの肉腫専門の先生達とも交流したこともあり、希少がんだからこそ、国際的な視点が必要と思い応募しました。



また、ASCO の PAL 活動の様子、肉腫の最新治療、アメリカの肉腫の患者会との交流などができればと思いました。

2. 渡航準備①

JSCO 事務局から 2 月下旬に選考報告を受け、3 月初旬には、派遣案内と 15 万円の補助金の振込依頼書の連絡がありました。ASCO2015 への参加登録および往復航空券、宿泊の手配については、ASCO2015web サイトから自身で行い、4 月 22 日までに登録すると参加登録料が一番安くなるということでした。

自分で試行錯誤しながら、web サイトから参加登録が完了すると、何度か ASCO からスカラシップ募集のメールを受け取ったので、こちらもダメもとで英文でアプリケーションを提出したところ、4 月中旬には \$2,000 のスカラシップの Approval メールが入りました。すぐに JSCO 事務局に連絡し、ASCO からスカラシップをもらえることになったこと、両方から受け取ることがダメなら辞退させて欲しいと申し出たところ、ASCO 側がダメでなければ、こちらはいいいという返事をもらい、申し訳ないと思いながらも今回は、2 か所からスカラシップを受け取ることにしました。

当然 ASCO にも、英文で報告書を提出する必要がでてきます。参加登録料 \$295、有料セッションや昼食チケット代で約 \$200（簡単な昼食なら PAL ラウンジにも用意されていたので不要だった）、飛行機代が約 10 万円となり、この時点ですでに 15 万円を超えていました。さらに Wi-Fi レンタル代 8,000 円、ASCO 経由で予約したホテル代が 5 泊で \$1,700（すでに \$300 以上クラスのホテルしか空いていなかった）でした。ASCO からのスカラシップがなければ、20 万円以上の持ち出しになっていました。



3. 渡航準備②

JSCO 事務局からは、3月の補助金の振込連絡以降、特に連絡がなかったので、あとは自分ですべて手配しなさいということかと思い、少し不安でしたがこちらからはあえて連絡はしませんでした。しかも、誰が今回一緒に選ばれたのかも知らず、当然情報交換もできず、名前を知ったのは渡航直前でした。シカゴの会場の PAL ラウンジに行けば、誰かに会えるだろうという感じでした。

ASCO の PAL 事務局からは、登録方法やホテルの予約、PAL プログラムやラウンジの様子、*iPlanner の使い方などの連絡が、毎週のようにメールが入りました。そして出発の 10 日くらい前には、首からぶら下げるホルダー、参加証、有料セッション・昼食チケットなどが自宅に郵送されてきて、参加登録ができていたことが確認でき、ほっとしました。



*iPlanner

スケジューリングアプリで、PC、iphone、スマホで、プログラムの検索はもちろん、自分のスケジュール管理なども簡単にできる便利なツール。

4. シカゴ到着

羽田から ANA 便で、カナダ・バンクーバー経由でシカゴ・オヘア国際空港に到着。バンクーバーでは、4 年ぶりに亡き妻の墓前に花を供えることができました。オヘア国際空港からは、ブルーラインに乗り、ダウンタウンのホテルにチェックインするころは、もう夜遅くなっていました。

翌日の ASCO 初日は、午後からスタートですが、毎年 ASCO に合わせて、シカゴ市内のホテルで、午前中開催される SARC (Sarcoma Alliance for Research through Collaboration) に事前に参加申込をしていたので出席し、顔見知りのアメリカの先生達や日本から来ていた先生達にもお会いすることができました。



5. McCormick Place

会場のマコーミックプレイスは、アメリカを代表する総合展示場（コンベンションセンター）で、ミシガン湖のほとりにあり、ダウンタウンからも至近距離にあります。入口近くの受付で、プログラムなどをもらい、早速 PAL ラウンジに直行。途中では、ボランティアの会場案内係を何人も見かけました。

35,000 人もの医療従事者が、東西南北に広がる広い会場を行き交い、大きなセッションの前後は、人があふれ、人気のセッションは席に座れなくて、立ち見や、急遽会場を増やし、プロジェクターで同時中継していました。アプリの iPlanner も役に立ちましたが、受け取った資料では、Annual Meeting Program とそれに附属のスケジュール表が非常に役に立ちました。



6. ASCO PAL ラウンジ

ASCO の PAL ラウンジに入ると、入口には 2 人の女性スタッフがいて、相談の受付や PAL セミナーなどの準備などをしていました。ゆったりとしたソファが置かれ、飲み物や軽食なども用意されていました。また、簡単な朝食やランチも用意されていて、自由に飲食することができました。

みなさんここで、プログラムのスケジュール確認や、情報交換をしていました。私のような ASCO のスカラシップを受けて来ている人は、今回 50 人で、アフリカやヨーロッパからも来ていました。奨学金は、初日にもらえ、少し離れたセキュリティのしっかりした別室に数人で移動し、封筒に入れられた現金を受け取りました。大金なだけに、初日はその保管に苦労しました。



7. ASCO セッション

今回まず驚いたのは、大会場での免疫療法（immunotherapy）関連のセッションです。今まであまり注目されず、何か怪しそうな印象だった免疫療法が、がん治療の重要な一領域として、その存在感を明白に示していました。いろいろながん腫に対して明らかな有効性を示す症例が示されており、肉腫に関しても、韓国のグループがポスター展示をしていました。

希少がんである肉腫については、教育セッションなどは、あまり人が入っていませんでしたが、卓上にスイッチが用意されていて、グレーな症例に対して、どのような治療をするのか 4 つの選択肢から選ぶようなことをしていました。その結果に対して、司会者がアドバイスしていましたが、見ていると抗がん剤使用のポイントが高く、そちらに導いているようなことも感じられ、一長一短な試みであるとも思いました。また、肉腫でいくつかの治験の結果が発表されることもあり、ポスターセッションや口述セッションでは、300 人くらいの会場がすぐに満席になり、急遽会場を増やし、同時中継していました。「分子標的薬を含む抗がん剤の標準治療は、ASCO で決まる」という所以がよくわかりました。

さらに、新旧抗がん剤の比較試験などでは、コスト比較もなされ、たとえば 2 か月延命効果があっても、コストが 70 倍高くなることについても言及し、評価が難しいとの報告もありました。



8. 展示ホール

製薬企業ブースがエリアを大きくとっていましたが、Patient Advocate ブースも 30 くらい出展していました。今回私が驚いたのは、日本では薬事法の関係で、企業ブースには立ち入ることもできませんでしたが、ここでは立ち入ることができ、質問なども自由にでき、情報を得られることでした。最近、企業の不祥事等も続いていることから、なかなか日本では実現できないかもしれませんが、透明性が確保できるような仕組みを作って、私達患者も情報を、直接得られるようにしていただきたいと思いました。

また、ポスターセッションは全体の展示数が多く、肉腫だけでも 70 ものポスターが展示されていました。ただ、展示時間が半日だけだったので、急いで回らなければなりませんでした。

さらに、アメリカの肉腫の患者会もブース出展していて、今後情報交換をしていくことにしました。



9. おわりに

日本癌治療学会からの奨学金で、ASCO に行かせていただき、日本とアメリカの学会や PAL 活動の違いなど多くを学ぶことができました。また、肉腫についての多くのセッション参加やポスター展示なども見学させていただき、多くの知識や情報を得ることができました。早速、患者会でも報告し、情報を共有し、今回の派遣経験を意義のあるものになりたいと思います。

さらに、来年も参加することになっているので、新しく参加される方たちに、事前にいろいろな情報を伝えたいと思います。できれば、ASCO のスカラシップを申し込む必要のないように、派遣費用ももう少し考えていただければ、助かります。私は遺族ですが、患者本人にとって、ただでさえ医療費にお金がかかっています。節約しようとしてどうしても安いホテルを探します。そうすると治安の問題も出てくるので、問題が起こる前にご対応いただければと思います。

医療従事者の真剣な答弁や発表内容を聞いていると、私達も力が湧き、頑張ろうという気持ちになりました。ありがとうございました。



*一緒に参加した加藤さんと展示ホール内の日本癌治療学会ブースにて。今回、天野さん、桜井さんは、東京で開催された厚生労働省主催のがんサミットに参加されるため、残念ながら初日のみ参加し、帰国されました。